

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	安富町立 安富中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	17
生徒数	71	66(1)	62	1	199	

研究の概要

1. 研究主題

少人数授業と総合的な学習  
 テーマ:「実態に応じたきめ細かな少人数授業と形成的評価の実践」

2. 研究内容与方法

(1) 実践学年・教科

1、2、3年生・数学と英語 及び2年生の総合的な学習  
 数学科教諭・英語科教諭の数がそれぞれ3名あり、教科部会を開催しやすく、基礎学力の定着と学力差解消の成果も表れやすいと考えたため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度  
 テーマ:「実態に応じたきめ細かな少人数授業と形成的評価の実践」  
 数学科・英語科における指導体制の工夫  
 能率的な形成的評価の研究と工夫  
 生徒の興味・関心に応じた今日的課題を通してIT機器の操作の学習と問題解決能力の育成をめざす総合的な学習  
 研究の内容・方法  
 数学科・英語科における指導体制の工夫  
 少子化に伴い、単クラスあるいは2クラス程度の規模の学校が増えることが見込まれる。そういった学校では、クラス編成に変化が乏しく、生徒のすべての活動においてモチベーションを上げることが大きな課題になる。  
 そこで、基礎学力の向上や生徒の活動に意欲や興味を多くひくことも含め、指導形態の有り様を工夫することにした。

《指導方法・体制(システム)の工夫》

- 3人の数学教師で全学年を指導し、3人で全生徒の成長の過程を検証しサポートしていく体制とすると共に生徒の成長にあわせ3人の教師が相互に成長しあえることを目的とする。

★各学年を3つのグループに分け、少人数学習を実施する。

- 1年生72名(2クラス) → 1グループ24名
- 2年生66名(2クラス) → 1グループ22名
- 3年生62名(2クラス) → 1グループ20名

担当教諭

1年生	α	β	γ
2年生	α	β	γ
3年生	α	β	γ

★3名の教師で199名の全生徒9グループに対応する。

数学科教諭交代表

		1章	2章	3章	4章	5章	6章
1年生	αグループ	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭
	βグループ	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭
2年生	αグループ	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭
	βグループ	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭
3年生	αグループ	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭
	βグループ	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭
3年生	αグループ	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭
	βグループ	A教諭	A教諭	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭
3年生	αグループ	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭
	βグループ	N教諭	N教諭	S教諭	S教諭	A教諭	A教諭

能率的な形成的評価の研究と工夫  
 「集団に準拠した評価」から「目標に準拠した評価」への移行に伴い、その説明責任と途中経過としての評価の有り様が課題になると考えた。一方、評価資料の収集にはかなりの時間を要し、評価のための授業になりがちで

あることを考えできるだけ短時間でできる資料収集をもとにした評価の有り様を考えることにした。

生徒の興味・関心に応じた今日的課題を通してIT機器の操作の学習と問題解決能力の育成をめざす総合的な学習  
 学校5日制で、行事の精選なり、能率的な時間割の作成なり、教育課程の再編に伴い「総合的な学習」の有り様についても見直すことにした。

まず、IT機器の基本操作ができるようにすること。  
 また、他の特別活動、特に学校行事とのつながりを考えた「総合的な学習」の持ち方を工夫することにした。

生徒に伝えるための提示カード

『2年生数学あゆみ』

プログレス評価をめざし、まず、本人が、自分の現状を把握し、自己評価するためには、これまで以上にその判断資料を提供しなければならないと考え、提供資料として、『数学あゆみ』を作成した。  
 いろいろな提示資料（例えば資料1）のような細かい資料も考えたが、教師側の負担が大きすぎることに、レポートの考えから以下になった。

テストの観点別取得点と弱点や進捗のコメントを記入し、形成的なd.o活動をサポートする。

単元確認テストの正答数を記入し、それぞれの生徒の形成状況を確認させる。単元基礎確認テストについても記入し参考にする。

テストの得点や評定配分の度数グラフを添付。その他、駄学に関する全体情報を添付する。

総合的な学習の取組の持ち方  
 共通総合的な学習（1年～3年生）  
 1.0分開読書  
 総合的な学習共通課題  
 『人権』  
 ◎スキルとしての3つの学習内容  
 課題意識の喚起  
 コンピューター等による問題解決能力の育成  
 プレゼンテーション能力の育成  
 ○1年生・・・2002年  
 生徒から疑問点としてあがった環境問題、地域学習問題、差別問題、高齢者問題の4つを軸に人権に結びつけて学習。  
 4月～5月：道徳との横断的学習として、人権に関する基礎学習、憲法の学習  
 6月：基礎学習の集大成として、リパティアー大阪を見学・研修  
 8月：プレゼンテーションソフト研修  
 10月～11月：プレゼンテーション  
 2003年  
 「仲間づくり」、「異文化を知ろう」（イングランド）  
 ○2年生・・・2003年  
 「職業調べ」（トライやる・ウィーク）  
 「福祉について考える」（2004年の修学旅行を含めて）  
 ○3年生・・・2002年  
 「異文化理解」（アイヌ民族）、差別問題を考える、生命の尊厳について考える、自己の生き方を考えるの4本柱で取り組む。  
 ○ポルトガタンでアイヌ文化の学習をする3年生  
 ○コタンコケル像の前で記念撮影の3年生

平成16年度	テーマ：「実態に応じたきめ細かな少人数授業と形成的評価の実践」 数学科・英語科における指導体制の工夫 能率的な形成的評価の研究と工夫 生徒の興味・関心に応じた今日的課題を通してIT機器の操作の学習と問題解決能力の育成をめざす総合的な学習 15年度の計画の充実に努める。
--------	--

平成15年度からの新機構については、平成15、16年度の計画について  
 (3) 研究推進体制

- ・ については、数学英語部会を中心に、細案を練り、教育改革推進委員会で対応している。
- については、上記推進委員会で検討討議し、学年対応で活動している。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

<p><b>成果と課題</b></p> <p>について</p> <p>生徒数の減少に伴い単クラス学年や2～3クラス学年が、ますます増加すると考えられその中で生徒が、少しでも変化があり、自己実現に向けてモチベーションが上げる効果があるように思う。今のところ生徒・保護者からはそういったプラスの意見が聞こえている。</p> <p>について</p> <p>生徒の意見として「次にどこを頑張ればよいか分かってよかった」とか「自分が分からないところが分かってよかった」等、今まで伝えきれてなかったところが、はっきりしてきた感じがする。その分指導をしやすくなった。</p> <p>について</p> <p>すべての生徒が、インターネットを利用した調べ学習、パワーポイントを利用した発表学習、メールの利用等今日的なIT操作については、マスターできたように思う。</p>
--

### 2. 今後の課題

<p>・ について</p> <p>評価・少人数学習ともに、現行実施のままでは、かなりの労力を必要とします。もう少し能率のよい方法・体制を考えてみようと思っています。</p> <p>について</p> <p>より多くのモチベーションをあげるためには、高校入試等の調査書等での総合的な学習の位置をもう少し考えていただく必要があるように思う。</p>
---

### 学力把握のための学校としての取組

<p>数学科：小单元テスト（毎時テスト）           单元テスト（单元ごと）</p> <p>英語科：单元ごとの単語テスト           单元ごとのワークシート（2種類）</p>
---

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>15年度は、特になし</p> <p>16年度は、研究発表会を行う予定</p>
---

次の項目に、該当の箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		